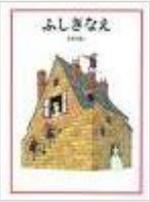


ブックトーク『いろいろな見方』 中1年 国語 6/14(金) 2校時…5組 6校時…6組 6/17(月) 3校時…4組 6/19(水) 4校時…7組			
	原稿	提示資料	生徒の反応
1	<p>こんにちは。オリエンテーションに続いて、皆さんの前に立つのは2回目ですね。学校司書の前島です。よろしくをお願いします。</p> <p>今日はブックトークをします。ブックトーク、知っている人もいるかもしれませんが、どういうものか説明します。</p> <p>ブックトークとは、あるテーマで数冊の本を紹介する本の CM です。今からしばらくは私が話をしますので、目と耳と心で聞いてください。</p> <p>今日のテーマは、『いろいろな見方』です。</p>		
2	<p>皆さんは目でいろいろなものを見えていますね？理科の内容になりますが、目で見えたものは、目の神経、視神経から脳に伝わり、脳で、「これは〇〇だ」ということを認識しています。</p> <p>でも、脳は少し自分勝手なところがあり、見たまんまのものをこれかな？あれかな？と勝手に解釈するそうです。つまり、目は顔でもツボでもないものを見ているのに、これはツボだ！と思ったり、これは顔だと思ったりするそうです。</p> <p>教科書に紹介されていた「ルビンのつぼ」がそうですね。</p>		うなづく。
3	<p>片方の色に注目するともう片方の色で書かれたものが見えなくなる。</p> <p>ルビンのツボのような方法で書かれたものを見つけたので、持ってきました。</p> <p>(ベスト電器の袋を見せる)</p> <p>これはある店の袋ですが…。</p> <p>皆さんは何が書かれているかわかりますか？</p> <p>ここに BEST って書いてあるの。ベスト電器の袋です。</p> <p>みえますか？</p> <p>実際にお店とかでも使われているんですね～！ちなみにこの袋は、お店の人に勉強で使うのでお願いしますと言ってもらってきました。</p>	ベスト電器の袋	<p>身を乗り出して見ている。</p> <p>袋を知っている生徒は先に店名をいうが、書いている字は読めないみたいだった。</p>

4	<p>はじめは絵本を一つ。</p> <p>教科書にも紹介されている、安野光雅さんの「ふしぎなえ」です。安野さんは言葉のない絵だけで描かれた絵本をたくさん書かれています。</p> <p>ひとつひとつの絵が細かくて、じーっと見入ってしまう絵本です。</p> <p>この『ふしぎなえ』は、下に流れていった川が途中から上に上っていたり、裏側が表側になっていたりと現実ではありえない不思議な絵が描かれています。</p> <p>指でなぞってみてみると、途中から、あれれれ？という状態になりますよ。</p> <p>絵本をめくって見せたいのですが、小さくて後ろまで見えないので、テレビに大きく写したいと思います。テレビに注目してください。</p> <p>たとえば、この絵は階段を上っていきませんが、通路を歩いていくと裏側になっています。</p> <p>この絵は人がいろんな方向に向いています。これではどっちが上でどっちが下かわかりませんね。</p> <p>川の水の絵はこれです。水がいつの間にか上に上っています。</p> <p>不思議な絵にするためにはいろいろな技法がありますが、安野さんはその技法を使って絵をかいています。</p>	 <p>3枚の絵をテレビに提示（パワーポイント使用）</p>	
5	<p>次の2冊はふしぎな絵がわかりやすく大きく載っています。</p> <p>小学校の図書室にもあったのではないのでしょうか？</p> <p>1冊目は『トリックアート図鑑 だまし絵』トリックアートとは人間の目と脳の仕組みをうまく使って実際とは違うものに見せたりする方法です。</p> <p>はじめにこの絵から。この二つの矢印は、水平部分の長さが同じでしょうか？それとも違うでしょうか？</p> <p>（矢印の水平部分の長さが違って見える錯覚の絵）</p> <p>正解は同じです。でも、下のほうが長く見えるでしょう？この花のような絵もそうです、真ん中の白丸の大きさが同じなのですが、右が大きく見えるでしょう？脳がだまされているんですね～。</p> <p>（中心の丸の大きさが違って見える絵）</p> <p>立体のだまし絵もあります。斜めから見ると何かわからないものですが、前から見るとピアニスト、横から見るとバイオリニスト！どんなふうになっているのでしょうかね。</p> <p>（立体のだまし絵の写真）</p> <p>トリックアートと言われて浮かぶのは、こんな絵でしょうか？</p> <p>（クジラが額から飛び出している絵）</p> <p>額から飛び出したように見える絵や、あたかもそこに本物があるように見えるものです。この絵は横から見ると</p>	  <p>紹介する絵をテレビで提示（パワーポイント使用）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に見る時間をとると、真っ先に取りに走っていた。 ・みんなで盛り上がっていた。

縦に長く伸びたような絵になっていますが、ある一点からみると、立体に見えます。

(ワニと柱の絵)

教科書に載っていた図もここにあります。ルビンのつぼと、おばあさんの絵は見たと思いますが、この絵は、何と何に見える絵でしょうか？

2冊目は『トリックアート図鑑 ふしぎ絵』を。不思議な絵は昔から書かれていました。これは16世紀のイタリアの画家ジュゼッペ・アンチンボルドの作品です。人の横顔の絵ですが、野菜やくだもので描いています。

こちらは江戸時代後期、歌川国芳というひとが書いた作品です。人の顔が小さな人で描かれています。鼻がお尻なんだよ。こちらの女の人も人を集めて書いていて、手を見てください。足が指になってるでしょう？

この猫も猫を集めて書いています。何匹の猫がいるでしょう？と問題が載っているのあとで見てみてください。不思議な絵で有名な画家がいますが、その人の作品がこちら。

これはエッシャーの作品です。一見普通の建物の絵に見えますが、柱の位置がおかしいよね。水が下から上へ上っているようにも見えます。エッシャーの作品はハウステンボスにミステリアスエッシャーというミュージアムがあります。エッシャーの作品がたくさん紹介されていますよ。

もうひとつ、ウィリアム・ホガースという人の作品で『誤った遠近法』という作品ですが、これも右下に拡大していますが、手前のおじさんが奥の湖の魚を釣り上げていたり、右上の拡大の絵のように、遠くの丘の上の人と、手前の建物の2階の人が話していたりつつじつまが合いません。こんな風な不思議な絵は、昔から書かれていたんですね。

紙に絵をかいたら、それが勝手に動くことはないですよ？

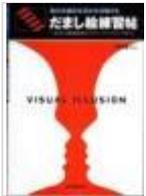
でも色の使い方や形で、その絵が動いているように見えることがあります。

この絵、よく見てください。ゆらゆらと動く様子がわかりますか？見えない人は少し視線を動かしてください、見えてきましたか？

この2冊は実際に見てみると楽しい本ですね。

・人が集まっている絵を見ると、気持悪い〜という声が聞こえた。

・ゆらゆら動く絵ははじめは見えなかったみたいだが、しばらくすると見えるようになってきた様子だった。

6	<p>これだけたくさんのだまし絵を見ると描いてみたくなった人もいるでしょう？ だまし絵の描き方が書いてあるのが、この本『だまし絵の描き方入門』です。 裏側と表側が入れ替わる図形はいちばん最初に乗っています。ホワイトボードでやってみましょう。 (ホワイトボードに紙をはり、動かして見せる)</p> <p>四角をかいた絵です。同じものを2枚用意して、こうやって描いた絵を切って入れ替えると、不思議な絵になります。</p> <p>枚数が多くなると、よりたくさんパターンができます。</p> <p>また、絵の上下をわからなくするために、人をいろんな方向に書く方法も載っています。これは、さっき紹介した『ふしぎなえ』にあった建物の絵の技法ですね。「重力方向かく乱の技」というカッコいい名前の技法です。 こんな風に方法を知れば、自分には出来ないと思っていたことができるようになりますね。</p>	 <p>・立体の絵が描いてあるカード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを動かして見る生徒もいた。 ・してみせると拍手してくれた。
7	<p>鉛筆で書くだけでなく、写真をつかったものや、色を付けたものもあります。 (ページをめくりながら)</p> <p>この『だまし絵練習帖』は、だまし絵の技法の歴史や方法もかいてあり、より詳しく知ることができます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんとおじさんの写真に反応していた。
8	<p>さて、この単元「ちょっと立ち止まって」の中に、 「ものを見る時には一つの方向だけでなく、ほかの角度から、見るのが大切」ってありましたね。 これがすごく大切だなって思いました。</p> <p>皆さんが今たくさん勉強しているのは、大人になって働くためですが、仕事をするということは、常に新しいアイデアを出せないといけません。これはどんな仕事でもそうです。</p> <p>新しいもの考え出すためには、今あるものを違う角度から見るのが重要です。 当たり前だと皆が思っていたものを、本当にそうなの？と疑うことから始めます。 そんなことを考えさせてくれる小説を一つ紹介します。</p> <p>アクセル・ハッケ作『ちいさなちいさな王様』です。 ある日、主人公ぼくの前に人差し指くらいの大きさの王様が現れます。 名前は12月王2世。赤いマントをつけて、おなかが大きくて、クマのグミが大好きな王様です。 そして王様は僕に、「おまえのところのことについて、ちょっと話してくれるかね？」と僕の世界の話を尋ねます。 そこで僕はこう話します。「僕の世界では、生まれたときはすごく小さい。だんだんと大きくなって行って人生の</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・内容が哲学的で難しかったかもしれないが、一人の生徒がすぐ手に取って読んでいた。 ・3年生くらいにちょうどいい内容かもしれない。 ・やっぱり難しいのか、少し眠たそう。

	<p>しまいのほうではほんのわずか縮んで、ついにいなくなるんだ。」と。そしたら王様は、「それはおかしいな」と言います。「どうして最後になくなるなら、初め大きくてだんだん見えないように小さくなっていかないのか？そっちのほうがいいじゃないか。わたしの世界ではそうだよ」と。</p> <p>王様は生まれたときがすでに大人で、だんだん小さくなっていくという世界で生きてきました。だから主人公の僕が当たり前だと思っていること、つまりひとつの方向からしか考えていなかったことに疑問を持つんですね。</p> <p>違う角度からものを見るということは、他人がもっている違う意見も聞いていくということです。いろんな人たちの話を聞いて受け入れて、柔軟な考えをもつことが大切だと、この王様は教えてくれます。</p> <p>王様や僕と一緒に、今私たちが当たり前だと思っていることを違う角度から見る体験をこの本でしてみてください。</p>		
9	<p>今日紹介した本は、皆さんの頭や考えを柔らかくしてくれる本ばかりです。</p> <p>いろんな見方を知って、大人になっていってください。</p> <p>今日のブックトークはおしまいです。ありがとうございました。</p>		

<実施後の感想>

最初の2クラスは、本を開いて見せていたが、先生に小さくて絵が見えていないということでアドバイスをもらい、テレビに映すようにした。動いて見える絵はよく見えて、生徒の反応もすごく良かった。

「ちいさなちいさな王様」では、ただ見るときの「視点を変えること」が、考えの視点を変えることにつながってほしいと思って紹介したが、少し難しかった。もう少し私自身が内容を理解し、上手な言葉で話してあげられたらよかったと反省した。ただ、ブックトーク後にどの本も手に取って見ていたのでよかった。楽しそうにだまし絵を見ていた。